

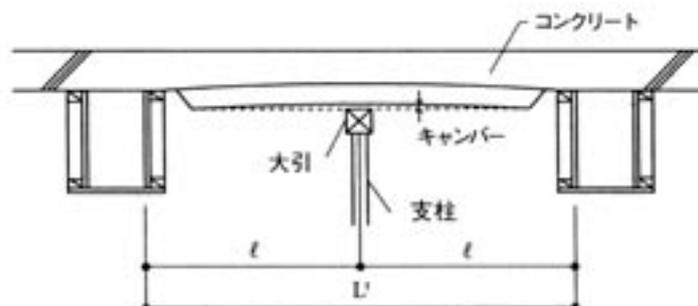
4 施工

Q-42 スパン中間に支保工を設ける場合の支保工の設置方法および支柱の設置間隔について教えてほしい。

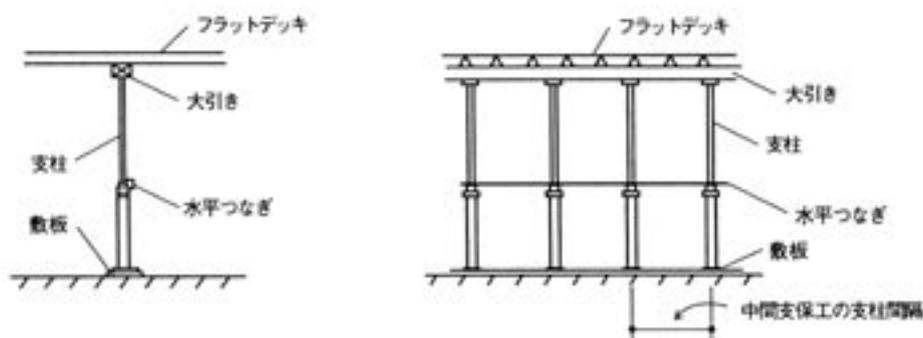
A

スパン中間に支保工を設ける場合は、フラットデッキにはもともとキャンバー（むくり）が 10 mm程度あるため、大引き材を直接フラットデッキのリブ下面に接して施工した場合にはスラブ厚確保に注意が必要です。その為、スラブ厚を確保するために大引き材をフラットデッキに直接接触させず、所定のレベルに設置し、コンクリート打込み後、自重で接触する様に設置します。

支保工の設置では、施工中の安全を確保するため、中間に設ける支柱の倒れ防止として、水平つなぎを設ける必要があります。また、支柱の滑りおよび沈下を防止するため地盤の不安定な所、捨コンクリートのないような所では、支柱の下に敷板などを設ける必要があります。



フラットデッキ中央部キャンバー



中間支保工の設置例

中間に支保工を設ける場合の支柱の間隔は、支持材の支持荷重の他、大引き材の曲げ応力、たわみなども考慮して支柱の間隔を求める必要があります。

算定にあたっては、通常の型枠同様、労働安全衛生法・同施工令、労働安全衛生規則（抄）および日本建築学会 - 「型枠の設計・施工指針案」に準拠して行って下さい。